

鳥栖に本格的卓球場オープン

目指せ佐賀国体!



子どもたちを指導する岡本篤郎さん(中央)
＝鳥栖市桜町の鳥栖卓球センター

鳥栖市 10代の活躍で卓球がかつてないような盛り上がりを見せる中、鳥栖市桜町に昨年12月、「鳥栖卓球センター」がオープンした。卓球台6台を設置できる十分な広さと、良質な床と照明を備えた本格的な卓球場だ。会社を辞めて指導者になる夢を実現した岡本篤郎さん(48)＝同市蔵上＝は「2023年佐賀国体の県代表を輩出したい」と張り切っている。

岡本さんは山口県出身で、40歳の時には全国大会も宮崎市の中学に入学してから経験した。卓球を始めた。初めて出場し、指導者を目指すきっかけは同市の大会で優勝して夢中、2004年のアテネ五輪前の

元会社員 岡本さん、指導者の夢実現

こと。国民的人気者の福原愛選手を特集したテレビ番組を見て「うちの4歳の双子にも五輪を目指させよう」とひらめく。転勤族の岡本さんは当時住んでいた愛媛県内の卓球場に子どもたちを通わせ始めた。

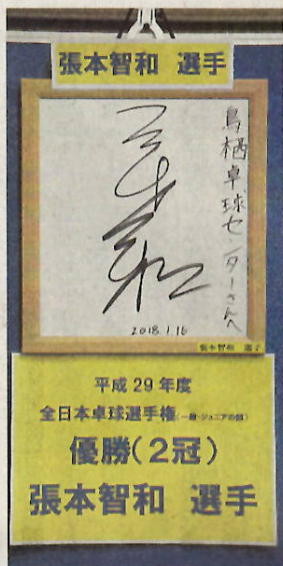
以降、転勤する度に地元の強豪クラブに入会した。宮城県では、1月の日本選手権を14歳で制した張本智和選手が3位に入った。優勝したのは同年度の伊藤美誠選手。1月の日本選手権で3冠を達成した、あの伊藤選手だった。

岡本さんは全国の強豪クラブの練習ノウハウを蓄積するうちに「自分の卓球場を持つて指導したい」との思いが募っていった。16年7月に思い切って退社し、両親が暮らす太宰府市を拠点に候補地を探し始めた。福岡市などには本格的な卓球場があったので鳥

栖市に絞り込んだ。一人の知人もいなかったが、基里中の体育館を借りて指導を始める傍ら、市内を歩き回り、運送会社の敷地内の建物を借りることができた。

「小学生のころから卓球をしたかった」という基里中1年の木谷颯太さん(12)は入会1カ月後の全日本選手権鳥栖地区予選でいきなり3位に卓球台を買ってもらい自宅で練習を始めていた。石川佳純選手のファンという小2の花田朋佳さん(8)は「サーブが決まったらうれしい」と話す。

岡本さんは目標としてジュニア層の育成、ミドル層の健康維持、シニア層の卓球療法の三つを掲げる。卓球療法という資格も取得した。「子どもたちには佐賀国体を目指してもらい、ミドルやシニア層には競技プラス生涯スポーツとして楽しんでほしい」と話している。問い合わせは岡本さん電話080(1)775(高井誠)



全日本卓球選手権で優勝した張本智和選手もオープンした卓球センターにサインを寄せた



一斉に紙飛行機を飛ばす子どもたち

鳥栖市 日本航空(JAL)グループの社員が講師となって開く「折り紙ヒコーキ教室」が1月30日、鳥栖市の鳥栖小であり、2年牛約110人と保護者が紙飛行機を作っ

傘寿記念いけ花展
梅とツバキ26作品
大和池坊・末永さん

みやき町 生け花の大和池坊久留米支部長で教授の末永皎秀さん(79)＝みやき町＝の個展「梅祭り・いけ花展」が、同町の「四季彩の丘みやき」で開かれている。梅とツバキをテーマにした作品26点が飾られ、来場者に春の雰囲気をお届けしている。

個展は、今月の誕生日で満80歳となる末永さんが傘寿の区切りに、これまで培ってきた技術を見てもらおうとある「大砂もはじめ、大小多飾っている。会場には強い的な臥竜梅、